

## (2) 嬉野市教育委員会の取組に係る成果

### ① 嬉野市学校評価の企画・運営

嬉野市では、ベースとなる学校評価理論を構築し、次のコンセプトで市内小中学校へ学校評価を普及させる方針で進めてきた。

- ・学校評価を新しいシステムと導入せず、従前の実践を組織的、発展的に扱う。
  - ・市内統一フォーム（様式）、市内共通項目を示さず、学校の独自性を保障する。
  - ・各学校の実践発表、先進地視察を参考にし、必要なものを積極的に取り入れる。
  - ・学校評価のための市や校内の会議を設けず、既存の会議の中で常時取り扱う。
- 以上のことによって、地に着いた、息の長い、実のある学校評価に繋がったと、この2年間の事業委託によって確信できた。

### ② 嬉野市学校評価ガイドラインの配布による県内幼・保・小・中・高への普及

学校評価の県内への普及を意図して、「嬉野市学校評価ガイドライン」を平成21年11月5日の嬉野市学校評価実践発表会において発行した。同時に、県内幼・保・小・中・高・特支の全学校、及び、県市町教委等の行政機関へ配布した。

内容としては、市内小中学校の様々な実践事例を盛り込んで、実際に学校現場で活用しやすいようにまとめた。また、本市の学校評価運営委員会・推進連絡会・3部会で協議する中で、共通理解が促進され、共通実践につながった。

### ③ 嬉野市学校評価実践発表会の開催による県内幼・保・小・中・高への普及

平成21年11月5日に、嬉野市学校評価実践発表会を開催した。玉川大学教職大学院教授 小松郁夫先生、佐賀大学文化教育学部准教授 倉本哲男先生、国立教育政策研究所主任研究官 植田みどり先生に、講師としてご指導を賜り、県内幼・保・小・中・高の教職員、学校評議員、PTA役員等400名ほどのご参加を頂いた。学校評価の県内への普及にささやかながらお役に立てたことと思う。

### ④ ホームページ掲載による学校評価の周知・普及

本市のホームページにおいては、学校評価の目的やPDCAサイクルの紹介、嬉野市学校評価ガイドラインの掲載による学校評価の普及を進めてきた。各学校のホームページには、それぞれの独自性をもった学校紹介や学校行事等がアップされ、学校理解が促進される内容となっている。

### ⑤ 研究報告書（2年次：総括）配布による学校評価の普及

1年次に引き続き、2年次の本研究報告書を平成22年2月末に市内全教職員、県市町教育委員会等の全行政機関に配布する。県内への学校評価の普及について、微力ながら努めることができた。

以上のとおり、学校評価事業を委託された目的は、他市、他地区への学校評価の普及にある。2年次になって、嬉野市学校評価実践発表会、嬉野市学校評価ガイドライン、研究報告書、ホームページによって、普及に微力ながら貢献できたことと思う。